

芸北町の最近の動向

駐村研究員 岡田新作（広島県・芸北町）

1. 芸北町の概況
2. 最近の動向

1. 芸北町の概況

芸北町は、広島県の西北端に位置し、東西約 26 km, 南北 13 km, 総面積 251.77 km² と広大な面積を有する（図）。総面積の 91% は山林で、標高は 23.4 m の臥龍山をはじめとして、1,000 m 級の山々に囲まれ、570~780 m の位置に農地と集落が散在している。冬期間は平均 1.5 m の積雪があり、年平均気温 11.1℃, 年間降雨量 2,450 mm となっている。特に 6~9 月の夏期に雨量の多いことと、例年 5 月 20 日前後に晩霜があることが、農業生産面で作目導入の選択に大きな制約を加えてきた。

他方、芸北町には中国地方でも有数の美しい自然が残され、とくに町の西端から北側の島根県境沿いに連なる中国山脈の山々は、西中国山地国定公園に指定されている。また、発電用に築造された樽床ダム（聖湖）と王泊ダム（仙水湖）周辺は四季の景観に恵まれているほか、町内にはこれまでに 8 つのスキー場が開設されて、九州や四国からの入場者も

多い。

広島市へは車で 2 時間、島根県浜田市へは約 1 時間の距離にあり、交通のほとんどは自家用車にたよっている。

人口は、昭和 30 年が最高で 7,602 人であったが、以降減少をつづけ、昭和 64 年には 3,765 人と半減している。

急激な人口減少をみたのは昭和 35 年から 50 年の 15 年間である。その原因として、ダム工事の完了による労働者の流出と、昭和 38 年の 3 m を超える豪雪を契機とした離村があげられるが、より基本的には、従来生活の基盤となっていた米と木炭による生活費の確保が困難となったことに加え、瀬戸内工業地帯の発展による人口吸収力の強化等、経済基調が変容したことである。

昭和 64 年 1 月現在の年齢階級別人口は表-1 のようになっている。人口構成は比較的バランスがとれており、幼齢人口（0~14 歳）が 16.9%, 生産年齢人口（15~64 歳）が 61.9%, 高齢人口（65 歳以上）が 21.2% となっている。

農業の面で生じた大きな変化としては、米の生産調整がはじまった 45 年以降、それまで離農者の相いついだ地域で、一部篤農家によって、ほうれんそう、トマトの雨除けハウスによる夏秋野菜の栽培技術が確立され、50 年代に入ってから飛躍的な生産の伸びを示したことがあげられる。60 年の野菜販売額は、50 年の約 3 倍の 4 億円に達し、米の 7 億円弱に次ぐ基幹作目となった。



図 DID 都市との関係（道路＝自動車）

表-1 男女別・年齢別人口

(単位:人)

	60. 1. 1			64. 1. 1			増 減		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
0 ～ 9歳	208	213	421	195	186	381	△ 13	△ 27	△ 40
10 ～ 19	272	244	516	243	231	474	△ 29	△ 13	△ 42
20 ～ 29	188	151	339	172	143	315	△ 16	△ 8	△ 24
30 ～ 39	225	201	426	214	176	390	△ 11	△ 25	△ 36
40 ～ 49	217	233	450	196	220	416	△ 21	△ 13	△ 34
50 ～ 59	358	390	748	303	339	642	△ 51	△ 51	△ 106
60 ～ 69	233	283	516	282	331	613	49	48	97
70 ～ 79	153	207	360	154	203	357	1	△ 4	△ 3
80歳～	76	89	165	70	105	175	△ 6	16	10
合 計	1,932	2,011	3,943	1,831	1,934	3,765	△ 101	△ 77	△ 178

表-2-(1) 一般会計歳入

(単位:千円)

	昭 55	平成元年
町 税	165,010	272,496
地 方 譲 与 税	28,329	43,344
自動車取得税交付金	22,283	34,197
地 方 交 付 税	758,369	1,411,052
交通安全対策特別交付金	553	1,180
分担金及び負担金	221,627	64,714
使用料及び手数料	10,219	17,263
国庫支出金	224,960	326,983
県 支 出 金	818,655	541,419
財 産 収 入	42,958	249,153
寄 付 金	14,742	10,450
繰 入 金	77,000	59,168
繰 越 金	33,085	104,714
諸 収 入	28,164	64,584
町 債	292,500	536,400
歳 入 合 計	2,738,443	3,743,015

表-2-(2) 一般会計歳出

(単位:千円)

	昭 55	平成元年
議 会 費	36,309	44,673
総 務 費	325,492	616,340
民 生 費	128,005	161,923
衛 生 費	48,508	98,330
労 働 費	282	5
農 林 水 産 業 費	1,161,018	881,288
商 工 費	4,940	16,924
土 木 費	373,427	458,163
消 防 費	16,349	79,056
教 育 費	251,473	512,235
災 害 復 旧 費	144,650	152,850
公 債 費	158,656	338,536
諸 支 出 金	1,175	377,561
予 備 費	—	5,131
歳 出 合 計	2,650,280	3,743,015

2. 最近の動向

平成元年度の芸北町の一般会計予算は37億4,300万円であった。そのうち農林水産業費が8億8,700万(23.5%)で最大の比率をしめている(表-2(1),(2))。ただし、昭和55年度と比べて減少しているのは、同年にはほ場整備関係予算が最大の5億円にのぼっていたためである。

ほ場整備事業は、平成元年度をもって計画のすべてを完了した。また、農業構造改善事業についても、ライスセンター、トマト選果

場等集出荷施設、パーク堆肥製造施設等、町全域を対象とする施設の整備に加え、集落等を単位とする農業生産組織の関連施設等も、おおむね昭和63年度にその整備を完了した。

この結果、農地の利用集積のための物的条件は整備され、農用地利用増進事業等、各種の制度を活用して農地の流動化が進んでいる(平成2年4月現在の利用権設定面積は187.8ha)。

また、水田利用の再編についても、さきに述べたように夏秋野菜(トマト、ほうれんそう)を中心とした野菜生産が定着した。

これらからみると、町の昭和50年代の10

年間における農業基盤の整備，農業構造改善事業を中心とする施策の推進は，いちおうの成果をおさめえたといえることができる。

しかし，現在次のようないくつかの問題が生じている。

① いわゆる団塊の世代の親世代，すなわち今日まで地域農業の担い手であった多くの人達が経営を委譲する年齢に達し，農地移動が多く発生しているにもかかわらず今後の担い手となるべき受け手が不足しているために必ずしも経営規模の拡大につながっていない（利用権設定の貸し手 264 名，借り手 226 名）。これは受け手側にとって米の魅力が薄れてきたことと，米以外の土地利用型作物の開発が遅れていることに起因している。

② 昭和 50 年代に生産，販売が著しく増大した野菜は，昭和 58 年をピークとして価格が横ばい傾向にある。他方，資材単価は上昇しており，所得率が低下していることから，農家の意欲にかげりが見え始めている（表-3 参照）。

③ 今年で 4 年つづきになる暖冬の影響で，スキー場や民宿などの経営に不安が生じている。

④ は場整備事業，災害関連事業等の公共

事業の大幅減により，土木従事者等の所得が低下している。

このような状況の中で，近年状況が好転しているのは，

① 酪農と和牛繁殖経営の好転 昨今の円高による飼料単価の値下げと，和牛の頭数減による仔牛単価の高騰によるものである。

② 花卉生産（りんどう，カスミ草，コスモス等）最近需要が増加し，高値に推移している。ただし，流通形態の特殊性もあって，実態がつかみにくい状況である。

こうした状況の中で，町は 60 年代に入ってから大きな転機を迎え，試行錯誤しつつも次の方向へ動こうとしている。

＜ソフト面の動き＞

① 昭和 60 年に町の基本構想の見直しを行ない，町づくりのメインテーマを「緑につつまれた活力あるまちづくり」から，「緑につつまれたうるおいと活力のあるまちづくり」とした。

② 組合員 11 万人をかかえる生活協同組合ひろしまと芸北町民の交流制度，「芸北特別村民制度」の設立を図るべく，そのルール作りのために互いに慎重に検討を進めてきた。

表-3 農 産 物 販 売 額

(単位：千円)

	昭 59	昭 60	昭 61	昭 62	昭 63
米	742,414	688,129	694,796	584,283	570,965
規 格 外 米	216	642	281	1,044	1,322
く ず 米	12,069	5,895	9,501	5,325	6,018
ト マ ト	210,822	196,976	129,658	192,790	155,517
キ ャ ベ ツ	19,491	19,847	14,267	14,521	29,002
ほうれんそう	93,005	99,743	94,080	101,423	97,735
だ い こ ん	1,122	636	—	—	—
そ の 他 野 菜	61,398	71,712	61,000	71,750	75,048
雑 穀 類	912	443	700	489	678
い ち ご 苗	8,763	6,562	6,061	7,250	6,276
牛	54,160	59,666	70,528	81,264	81,947
豚 (めん羊)	80,376	65,355	61,791	60,169	67,792
生 乳	212,485	216,090	210,184	202,879	215,549
合 計	1,497,235	1,431,696	1,352,846	1,323,186	1,307,848

この制度の主たる目的は、市民側は、芸北町の自然の中で安心して休憩できる場の確保が可能となること、芸北町側は、この制度を通ずる交流から新しい文化の移入が期待されることである。

この検討にさいして生協組合員の中からランダムに抽出して行なったアンケート調査の結果は、別紙のとおりである。

また、芸北町内にある民宿 115 戸のうち、この制度により夏場の民宿を受け入れたいとの意向があったのは 47 戸であった。

検討委員会では、生協側から「この制度創設に当たって町は何をするか」との質問があり、これに対して「町は、この制度のためにことさら施設整備等をする計画は持っていない。したがって、このままの芸北町が好きな人に入って来て欲しい」と答えたことに端を発し、大議論となった。しかし、数回の検討会を重ねるうちに町の本意が理解され、本制度は今年の 5 月 1 日からスタートした。

③ 芸北町の将来構想を考える任意グループ、芸北デザイン会議から、昨年 3 月に、町のさまざまな情報を一元的に発信するセンターを設けるようにとの「町のヘソ創り」の提言があり、現在検討がつづけられている。

④ 農業協同組合、森林組合ともに、山県郡内 7 町村を西部と東部に分けて広域合併を行なう方向で話し合いが進行している。森林組合の方が一足先に実現する見込みである。

⑤ 芸北町の秋のイベントである昨年のふるさと祭において、京大の四手井綱英教授、滋賀県の自然保護グループの佐藤成子さん等を招いて「森を考えるシンポジウム（別名どんぐりシンポジウム）」が、開催され、また今年の 5 月には、第 2 回のシンポジウムが、地域総合研究所猪爪範子、山と溪谷社藤田順三、北里大学小原二郎、広島大学山下彰一の各氏を招いて開催され、いずれも盛況のうちに幕を閉じた。

＜ハード面の動き＞

① 昭和 61 年度から農村総合整備モデル事業に着工し、飲雑用水の整備、農道の整備舗装、農村環境改善センターの中央公民館との合体施行による整備等、農村の生活環境に重点を置いた整備を図ることとしている。

② スポーツを通じたふれあいの場を作るため、昨年、芸北町運動公園の整備に着工した。体育館、屋内プール等の屋内施設は、近く完成の予定である。

③ 児童数の減少の激しい 2 つの地区の小学校を統合することとし、昨年、新校の建設に着工、この夏完成の予定である。これで町内の小学校は 8 校となる。

④ 中国縦貫高速道に直接受益しない芸北町にとって、これに連絡する道路の整備に対する要望は強い。これに対応するため、西の戸河内 I.C、東の千代田 I.C に連絡する 2 つの道路について、前者は昨年に着工、後者も同じく昨年調査に入った。

⑤ 聖湖周辺に大手企業による保養地の建設が昨年秋に決定した。

⑥ 年間 2,400 mm を超える降水量による豊富な水を活用した小規模の水力発電と、これを利用した産業おこしの検討に昨年から入っている。

さいごに、このような各種の検討、取組みを通じて、最近特に私が個人的に強く感じていることを記します。

〔農家、林家が広大な地域を保全していることに対する都市側の負担または評価（意識）が公平でないのではないかと〕

① 水源かん養保安林 9,998 ha（全森林面積の 46%）や国定公園等に指定されている林地については、他用途への活用が厳しく規制されているにもかかわらず、その見返りは少ない。これら林地のほとんどは私有地であり、その管理は農村住民が行なっているが、この直接の恩恵に浴しているのはもっぱら都市側である。

② 国道等を除く主要道水路は広大な面積

と延長を有する。その管理は、すべて農村住民が集落への出歩（無償）で行なわれている。

細部について具体的な事例はここでは省略させていただくが、これらの負担について公平でないとの思いが特に強く感ぜられるこの頃である。

（岡田駐村研究員から今回寄せられた報告は、2. 最近の動向、の部分であるが、読者の理解に資するため、同氏が本季报の前身である『総研月報』に以前寄せられた報告を基にして、1. 芸北町の概況、をつけ加えた。篠浦光記）。

（別紙）

「村民制度」検討アンケートのまとめ

（1989年6月13日 生活協同組合ひろしま）

1. アンケートの回収率

1. 抽出方法：午前・午後の各コースの1班目の組合員に依頼。
2. 実施期間：・配布/5月2日～6日、商品配達時に班担当者を通じて依頼。
・回収/5月8日必着とし、着払い郵便。なお、記名アンケートとした。

・集計/年代別の区分をして集計を行った。

3. 回収率：対象者378人に対して191人の回答者。（回収率50.5%）
4. 回答者の地域分布：住所・氏名・電話の記入者（回答者全体の82.2%）のみ集計

広島市	52.2%	注釈① 広島市とその周辺を合わせると、組合員の居住地分布は、全体の2/3を占める。 ② 実際の組合員分布と比較すると、安芸郡の回答者は倍（13.4/6.5）の率になっている。続いて高いのは福山市（14.6/9.6）、東広島市（7.0/4.9）である。
福山市	14.6	
東広島市	7.0	
三原・尾道市	5.1	
三次市	1.3	
安芸郡	13.4	
佐伯郡	1.9	
その他の地域	4.5	

2. アンケート結果のコメント

1. 年齢について（日生協生活動向調査との比較より）

年 齢	村民検討	日生協調査	注 釈
20歳代	26.0%	18.0%	① 日生協調査の場合は、対象組合員をランダムに抽出するが、村民アンケートは共同購入の現場で依頼をしており、共働き組合員の回答者が少ないものと考えられる。 ② 若い層にシフトしている。
30歳前半	29.6	26.2	
30歳後半	22.2	24.3	
40歳前半	13.2	13.1	
40歳後半	3.2	7.4	
50歳以上	4.8	9.8	

2. 泊まりがけの旅行について

年 齢	し た	し ない	注 釈
20 歳代	54.3%	45.7%	① 村民アンケートの対象者は、主婦であり、県農政課が行った県内の調査と比較すると、生協の方が泊まりがけの旅行者は多くなっている（下記参照）。 ・生協全体の平均…………… 61.6% ・県調査（女性）の平均…………… 53.2%
30 歳前半	68.2	31.8	
30 歳後半	57.2	42.8	
40 歳前半	54.5	45.5	
40 歳後半	50.0	50.0	
50 歳以上	80.9	19.1	

3. 泊まりがけの旅行をする場合の一人当たりの旅費について

旅 費	%	注 釈
～1 万円	6.3	① 1～4 万円代に 3/4 が集中している。しかし、20 歳代や 30 歳前半の年齢層では、旅費の分布が広がっており、旅行の形態や目的も多様化（個性化）していると考えられる。逆に 40 歳代になると 2～4 万円に集中しており、宿泊も民宿やペンションに偏る傾向にある。
1～2 万円	33.9	
2～4 万円	41.7	
4～7 万円	11.5	
7～10 万円	5.7	
10 万円 ～	1.0	

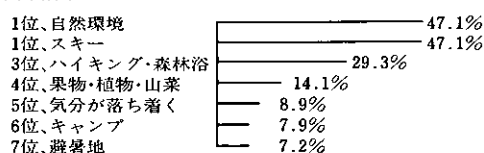
4. 芸北町の認知度とイメージについて

年 齢	知っている	知らない	注 釈
20 歳代	72.7%	27.3%	① 転勤族が多く芸北町を知らない組合員が全体の 1/4 を占めていると考えられる。 ② 年齢が高くなるにつれて認知度も高くなっている。
30 歳前半	65.9	34.1	
30 歳後半	77.1	22.9	
40 歳前半	81.8	18.2	
45 歳以上	87.5	12.5	
全体の平均	73.7	26.3	

芸北町を知っている人の半数は、スキーや山登りで芸北に行っている。したがって、芸北町＝スキー・山登りのイメージが非常に強い。

5. 芸北町の魅力について

① 全体の集計結果



② 年齢別の魅力

順 位		20 歳代	30 歳前半	30 歳後半	40 歳代以上
1 位	スキー	57.1	自然環境 45.5	自然環境 48.6	自然環境 40.5
2 位	自然環境	45.7	スキー 40.9	スキー 48.6	スキー 35.1
3 位	ハイキング	28.6	ハイキング 38.6	ハイキング 37.1	植物・山菜 24.3
4 位	避暑地	8.6	植物・山菜 13.6	植物・山菜 11.4	休養の場 18.9

この中で、自然環境の活用としては、「川遊びなど子供を自由に遊ばせる」が圧倒的に多く、子供を持つ年代では、全体平均を上回っている。

6. 希望する宿泊施設について

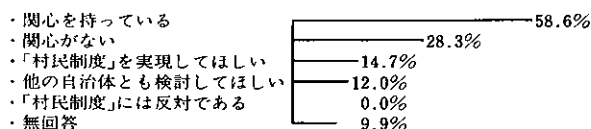
順 位	全 体 平 均	20 歳代	30 歳代	40 歳代
1 位	ペンション 38.7	キャンプ 42.9	ペンション 43.0	民宿・民泊 39.3
2 位	貸別荘 31.4	ペンション 40.0	キャンプ 34.2	ペンション 35.7
3 位	キャンプ 29.8	貸別荘 40.0	貸別荘 34.2	ホテル・ロッジ 28.6
4 位	民宿・民泊 29.3	オートキャンプ 34.3	オートキャンプ 27.8	貸別荘 28.6

7. 希望するスポーツ・レジャー施設について

順 位	全 体 平 均	20 歳代	30 歳代	40 歳代
1 位	サイクリング 52.9	サイクリング 71.4	サイクリング 59.5	サイクリング 42.9
2 位	スキー場 44.0	スキー場 48.6	スキー場 46.8	スキー場 39.3
3 位	キャンプ場 37.7	キャンプ場 48.6	キャンプ場 39.2	キャンプ場 25.0
4 位	テニスコート 22.5	テニスコート 28.6	テニスコート 24.1	テニスコート 17.9
5 位	ゴルフ場 16.7	ゴルフ場 22.9	乗馬場 21.5	グラススキー 7.1

8. 「村民制度」に対する関心度について

① 全体のまとめ



② 年代別の関心度

年 代	関 心 ある	関 心 ない	注	釈
20 歳代	71.4%	28.6%		
30 歳前半	72.7	27.3		
30 歳後半	62.9	37.1		
40 歳前半	59.1	36.4		
40 歳後半	66.7	33.3		
50 歳以上	50.0	50.0		
全体平均	67.5	32.5		

回収枚数 191/378 (回収率 50.5%)

「村民制度」検討のためのアンケート
(1989 年 5 月 生活協同組合ひろしま)

(1) この 1 年間 (1988 年 5 月 1 日～1989 年 4 月 30 日) で、泊りがけの観光・レクリエーション・旅行をされましたか。

- ① した 117
② していない 73

(2) 今後泊りがけで行きたい (行く予定の) 観光地や保養地がありましたら下記に県内・県外に

分けてご記入下さい。(それぞれ最高 3 カ所まで記入できます)

別紙参照

(3) 泊りがけで行くとしたら誰と一緒に行かれますか。該当する番号を 1 つだけ選んで下さい。

- ① 自分ひとり 1
② 夫婦または家族 169
③ 班やその他の家族と一緒に 9
④ 友人と 11

(4) 泊まりがけの旅行プランを組むとしたら下記のどれを優先されますか。

- | | |
|----------------------|-----|
| ① 全て自分で考え手配する | 138 |
| ② 町内会や職場など所属する組織のツアー | 5 |
| ③ 生協の旅行企画 | 8 |
| ④ 旅行代理店のバックツアー | 27 |
| ⑤ その他 | 8 |

(5) 泊りがけで行くとしたら旅費や宿泊代・食事代を含めて1人1回どの程度の費用をお考えですか。

- | | |
|----------|----|
| ① ～1万円 | 12 |
| ② 1～2万円 | 65 |
| ③ 2～4万円 | 80 |
| ④ 4～7万円 | 22 |
| ⑤ 7～10万円 | 11 |
| ⑥ 10万円以上 | 2 |

(6) 広島県芸北町をご存じですか。

- | | |
|---------|-----|
| ① 知っている | 140 |
| ② 知らない | 50 |

(7) 知っている人にお伺いします。下記項目で該当するものがあれば番号に○をつけて下さい。

(複数回答可能)

- | | |
|-----------------------|----|
| ① 本人もしくは家族が芸北町の出身 | 4 |
| ② スキーや山登りなどでたびたび行っている | 74 |
| ③ 行きたいと思う(行く予定である) | 47 |
| ④ 行こうとは思わない | 7 |
| ⑤ その他 | 17 |

(8) 上記の①～③に答えられた方にお伺いします。芸北町の魅力はどこにあると思われますか。下記のうち3つ選んで下さい。

- | | |
|----------------|----|
| ① 自然環境 | 90 |
| ② 芸北町の文化 | 4 |
| ③ 民宿(家族的な雰囲気) | 6 |
| ④ 民宿(宿泊代が安い) | 7 |
| ⑤ 農業体験、貸し農園 | 1 |
| ⑥ 田舎の生活体験 | 7 |
| ⑦ 野鳥・昆虫 | 7 |
| ⑧ 果物・植物・昆虫 | 27 |
| ⑨ ハイキング・森林浴 | 56 |
| ⑩ キャンプ | 15 |
| ⑪ スキー | 90 |
| ⑫ サイクリング・ツーリング | 4 |
| ⑬ 釣り | 7 |

- | | |
|-----------------|----|
| ⑭ 避暑地 | 14 |
| ⑮ 気分が落ち着く(休養の場) | 17 |
| ⑯ ログハウス等を持っている | 3 |

(9) 下記の「村民制度」検討項目の中で、あなたがのぞむ番号があれば○をつけて下さい。

1. 農地・農園や農産物。

- | | |
|---------------|----|
| ① 貸し農地・農園 | 19 |
| ② 農産物の青空市 | 55 |
| ③ 特産品の直送 | 91 |
| ④ 農産物加工を自分でする | 10 |
| ⑤ 産直 | 60 |
| ⑥ その他 | 2 |

2. 自然環境の活用について。

- | | |
|---------------|-----|
| ① 山菜狩り | 45 |
| ② 植物や野鳥・昆虫の観察 | 74 |
| ③ 森林浴 | 68 |
| ④ 子供を自由に遊ばせる | 121 |
| ⑤ 子供を一定期間あずける | 22 |
| ⑥ その他 | 1 |

(10) 下記の施設が芸北町にあると仮定した場合、あなたはどの施設を利用されますか。

1. 宿泊施設について。

- | | |
|--------------------|----|
| ① 民宿・民泊 | 56 |
| ② ペンション | 74 |
| ③ キャンプ | 57 |
| ④ ホテル、ロッジ | 49 |
| ⑤ 貸別荘 | 60 |
| ⑥ オートキャンプ・キャンピングカー | 45 |
| ⑦ 集会所の活用 | 4 |
| ⑧ その他 | 0 |

2. スポーツ、レジャー施設

- | | |
|-------------------|-----|
| ① スキー場 | 84 |
| ② テニスコート | 43 |
| ③ サイクリングコース | 101 |
| ④ ゴルフ場 | 28 |
| ⑤ キャンプ場 | 72 |
| ⑥ 乗馬場 | 25 |
| ⑦ ハングライダー・パラグライダー | 5 |
| ⑧ グラススキー場 | 13 |
| ⑨ カヌー・ボート | 12 |
| ⑩ その他 | 0 |

(11) 生協ひろしまが下記のツアーを企画実行したとして、あなたや家族が参加してみたいと思う番号に○をつけて下さい。

- | | |
|-----------------|----|
| ① ワラビなどの山菜狩り(春) | 44 |
|-----------------|----|

② 小・中学生を対象とした ホームステイ（春・夏休み）	24
③ 避暑を兼ねた星見ツアーと 山陰の海水浴（夏）	84
④ ハイキング・森林浴（春～秋）	79
⑤ スキーツアー（冬）	59
⑥ その他希望する企画	6
⑫ 「村民制度」の検討について、あなたはどの ように思いますか。該当する番号に○をつけて 下さい。	
① 「村民制度」を実現してほしい	28
② 関心を持っている	112
③ 関心がない	54
④ 他の自治体とも「村おこし」 の検討をしてほしい	23

⑤ 「村民制度」の検討には反対	0
⑥ 無回答	19
⑬ あなたの年齢をお聞かせ下さい。	
① ～25 歳	2
② 26～30 歳	47
③ 31～35 歳	56
④ 36～40 歳	42
⑤ 41～45 歳	25
⑥ 46～50 歳	6
⑦ 51～55 歳	3
⑧ 56～ 歳	6

ご協力有難うございました。

住 所：〒
氏 名：